

1 年を通して強風が吹く、風のまち稚内市。いわゆる「厄介者」とされていた風を再生可能エネルギーとして活用するための風力発電の他に、太陽光発電、バイオマス、雪氷冷熱など多くの再生可能エネルギー施設が存在し、再生可能エネルギー研究の最先端都市と言えるようになりつつあるとのこと。

- 太陽光メガソーラー発電施設 5,020kW
- 稚内公園風力発電施設（風車 225 kW×1 基） 225kW
- 稚内市水道部風力発電施設（風車 660kW×3 基） 1,980kW
- バイオエネルギーセンター（生ごみ中間処理施設／ H24.4.1 稼働予定）

民間所有施設

- 宗谷岬ウィンドファーム（風車 1,000kW×57 基） 57,000kW
- 稚内風力発電施設（風車 400kW×2 基、750kW×2 基） 2,300kW
- さらきとまないウィンドファーム（風車 1,650kW×9 基） 14,850kW
- 自然冷熱（雪氷）利用貯蔵施設
- 水素燃料電池（7.04kW）と足湯

稚内市は人口 36546 人と矢板市と変わりなく、早くから地域特性である「風」に着目し、再生可能エネルギー導入に積極的に取り組んで来たということに、矢板市における今後のあり方のヒントを感じさせられた。

近年は大規模な太陽光発電施設が研究機関から稚内市に譲渡され、風力と太陽光を合わせると、市内の発電出力規模は 80000kW（稚内市内で消費される電力の約 90%に相当する）を超え、再生可能エネルギーの一大生産地となっているらしい。

稚内市の取り組みは、これらの再生可能エネルギーの関連事業によって雇用を拡大し、人口流出およびそれにともなう過疎化・高齢化の防止や地域活性化に結び付けるというねらいもあるとのことだが、大変興味深く視察をさせてもらった。

コホートピア

コホートピアとは、コホート(前向き医学研究)とユートピア(理想郷)を組合わせた新語。コホートは「市民軍」を、トピアは「地域」を意味します。医学研究を留萌の地に誘致することにより理想的な医療環境を構築しようとする試みです。

構想

留萌コホートピア構想は、留萌市を中心とする留萌支庁管内自治体の市民の協力を得て、集団を長期にわたり観察・介入研究する日本最大のコホート医学研究フィールドを樹立、そこに大学や企業の研究を誘致、地域を活性化し、市民に健康と安心をもたらすことを目指します。

基本的考え方

「臨床医学研究」のアイデアで住民の健康と地域医療を守り、保健・医療・福祉の理想的な街づくり 留萌市を中心とする留萌管内の地域住民の協力を得て、健診活動の推進により、集団を長期にわたり観察・介入する日本最大のコホート医学研究基盤を樹立し、そこに大学や企業の研究を誘致し、地域の活性化を図るとともに、市民に健康と安心をもたらすことを目指す。

<取り組み>

- 市民の健康の維持・増進を図るため、健診の推進、健康啓発、健康づくり活動や自ら健康状態を知る機会の提供
- 地域の保健、医療、福祉の充実に向けて、大学をはじめとした専門的見地からの各種データ解析、事業提案、実践等
- コホート研究体制の基盤づくり
- 地域食材の研究により健康効果の付加価値付けとブランドアップ化

— 市民との関わり —

健診を受け、コホート研究に参加することで、自分の健康状態がどのような病気につながりやすいかなどを知ることになり、病気の予防へのヒントとなります。また、これまでの医学研究でわかっていることを応用して、みなさんに予防医学の視点から健康づくりをアドバイスします。さらに、るもい健康の駅を、市民自らが健康意識を高め、健康に気づき、健康づくりを楽しみながら実践できる場として提供します。

留萌市における、コホートピア構想には、矢板市における今後の保健・医療・福祉の在り方のヒントを得たように感じる。

矢板市においても市単独事業ではなく、近隣市町との連携を持って、住民の生活の質の向上を図る必要性を強く感じた。

地域おこし協力隊は、都市部で生活する方々など、地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持と強化を図る総務省の推進事業。

滝川市では、「観光振興」・「商業振興」・「国際交流」・「生涯学習」・「農業振興」など、5 つの分野に関わる地域協力活動に従事していただきながら、滝川に定住・定着できるよう全力でバックアップしている。

それぞれの分野が分野ごとの課題・テーマを設け、積極的な活動がされていることに、興味を覚えた。

仕事の内容

- 市民が求める「学び」に関する情報収集
 - ・グループ、サークルの活動調査・事業の実施にあわせ市民が求める「学び」を調査
- 生涯学習活動の支援
 - ・いきいきまつり(生涯学習フェスティバル)等の活動支援
- 福寿大学(高齢者向け事業)のカリキュラムの企画及び運営
- 生涯学習プログラムの立案・パブリシティ業務
- 一般財団法人滝川生涯学習振興会事業との連携の仕組み作り

矢板市においても地域外の人材を、地域社会の担い手として受け入れるシステムの構築は必要に感じた。ただし矢板市においては東京圏に近いという難しさが課題になるのではないかと考える。